

ナイトセミナー

まのむ
どのそ
このま
うた
う

日々を見つめる写真の技法

全4回

写真に関心のある方もない方も

幸福な日も残念ながらそうではない日も

一眼レフでもケータイのカメラでも

手元にある道具を使って

目の前に広がる日々を見直してみたい方を

お待ちしております

2016年

9月22日・29日・10月6日・13日

いずれも木曜 19時～20時45分

参加料 全回:3,500円(初回前払い)、各回:1,000円 定員:各回15名

*全回参加がおすすめですが、各回の受講も可能です

会場:砂丘館 主催:砂丘館

申し込み:電話・FAX・Eメールで砂丘館へ(受付開始日 9月4日)

*FAX・Eメールでお申し込みの方はお名前、連絡先(電話番号)、人数を併記して下さい。

講師:榎本千賀子

砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1

tel./fax. 025-222-2676

sakyukan@bz03.plala.or.jp

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体



夜の砂丘館で

世界を散歩しよう

night wandering in Sakyukan

2016

会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。

- 新潟駅からのバス:浜浦町線C2系統又は観光循環バス「西大畑上」バス停下車徒歩1分
- 新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券掲示にて1時間分の無料券を差し上げます。

Illustration: HASUIKE Momo

私たちは砂丘館の自主事業を
応援しています。

イロあられ株式会社

NSGグループ

株式会社ナレッジライフ

新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金属

郷土の文化に親しむ会

わたしたちが暮らす日々は、どのような姿をしているのでしょうか。わたしたちはその姿を、どのように見つめることができるのでしょうか。日々から得た発見を、どのように人と分かち合い、新たな日々を作る手がかりとできるのでしょうか。写真という身近な道具を「まど」として、日々の暮らしを出発点に、わたしたちの知らない「むこう」へ向かう方法を一緒に探してみましよう。

まそ
どの
のま
むた
日々を見つめる

この
むこう

写真の技法

1)

写真って、どんな「まど」?

この講座で使う、写真について考えてみましょう。日々を見つめる観察の道具として、発見を伝えるコミュニケーションの道具として、写真はどのような可能性を持つ「まど」であると言えるのでしょうか。身近な道具である写真を、あらためて見なおしてみます。

9月22日(木)

2)

「まどのむこう」への冒険

写真をつうじて、日々を見つめた人々の冒険を辿ります。山深い村のなかで、都市の家庭生活のなかで、そしてここ新潟で……カメラを持って自らの日々に分け入った人々は、どのような眼を育て、何を発見したのか、一緒に見てみましょう。

9月29日(木)

3 + 4)

わたしとあなたで「そのまたむこう」へ【講評】

写真を通して日々を見つめた成果を、参加者全員でゆっくり検討します。各自が撮影した写真を 2L 程度にプリントしてお持ち下さい。講評では、写真の技術的な巧拙を評価するのではなく、写真に写るさまざまな日々の姿、多彩な眼のあり方を捉えることを目指します。まとまりある日々の姿、各自の眼のあり方をよりよく探るため、できるだけ沢山(20枚以上)の写真をお持ち下さい。

10月6日・13日(木)

講師

榎本千賀子(えのもと ちかこ)

1981年 埼玉県で生まれ、東京で育つ。

個展「DAEDALUS」(Musee F, 東京, 2005年)より写真家として活動。自らが暮らす住宅地を主なフィールドとして写真を制作する。2013-2016年新潟大学人文学部助教。新潟暮らしのなかで撮影した写真を個展「都市と都市:新潟」(新潟絵屋, 新潟, 2015年)、Zine『On the Dunes, Niigata』(DAEDALUS Press, 2015年)として発表。

2016年5月より福島県大沼郡金山町に暮らす。奥会津地域の写真資料の調査・整理を行うとともに、自らの暮らす集落を中心として写真制作を行っている。

